

一人ひとりと会話を楽しむ

～ 個人の特徴、特性を大事にしていく～

施設名：介護老人保健施設 養生の里

発表者：豊川 優紀

上原 美由紀

【はじめに】

核家族の増加により、独居生活を余儀なくされている利用者が増えている。一人の時間が長くなることにより、会話する事も減り脳への刺激が少なくなることで認知症や難聴、言語障害など様々な病気の原因になるとも考えられている。当施設では何よりも会話する事を大事にし、利用者と触れ合うことを大切にしてきた。まだ開所して3年目だが、これまでに一人ひとりの利用者との触れ合いを通して感じてきた事をスタッフで振り返り気付いたことを報告する。

【取り組んできた内容】

利用者との会話や触れ合いを大事にする

【結果】

難聴、盲目がある利用者とのコミュニケーションを取ることに初めは困難を極めていたが、ポディータッチや本人が無造作に会話することを聞き取り返事を返すなどすることにより、利用者との意思疎通が

徐々にだが見えるようになった。

言語障害があり、自分の言葉が伝わらずすぐにイライラして怒り出したり、会話することを拒否していたが、ゆっくり会話することから始め、聞き取りにくい言葉でも

その利用者の言葉の特徴を掴んで行くことにより言葉が聞き取れ、本人も話すことが増え笑顔が多くなり、他の利用者との会話も増えてきた。(他の利用者との会話するときは補助が必要な場合もある)

利用開始時は独居生活が長く、人との交流を持つ事を好んでいなかった利用者に対し、始めに利用者スタッフと信頼関係を築き上げることを目的とし、リハビリより会話することを重視した。徐々にスタッフとは打ち解けてきたが、他の利用者との交流は見られなかった。そこで会話の途中で他の利用者に話しを振り、一緒になり話すことで、徐々にだ他の利用者との会話も増え、現在では一人で過ごすことは殆どなく、他の利用者との交流を楽しんでいる。

【おわりに】

業務に追われ忙しい中、ついつい一人ひとりのコミュニケーションを疎かにしてしまうこともあるが、今までを振り返り普

段からの声掛けの仕方やコミュニケーションの重要性を再確認する事ができた。今後、一人ひとりの出会いから大切に、利用者の笑顔が多く見ることができるよう心掛けていきたい。